



# まちの安心安全が増加中

白山神社通り（布田小西側通り）の坂下付近の道路および歩道の拡幅工事が終了し、見通しの良い道路に改善されましたが、南側からくる車両が一時的に幅寄せを余儀なくされる危険な状況が生じ、当地区協会で改善を要望していました。調布市側は写真のように早急に対応してくれ、車両の無理な幅寄せもなく通学する子どもだけでなく普通に通行する大人もグリーンベルト内を歩く光景をよく見るようになりました。

ひと目見て安心を感じる光景になり、行政と協力しながら地域をあげて関心を高め、改善を図っていくチームワーク連携の良さを感じます。



現地までは調布市の貸し切りバス

## 身近な街の危険箇所お知らせください！

### 布田小地区ハッピータウン協議会 役員・運営委員

- 《役員》平成29年度  
 会長 依田 耕児（地区ボランティア有志）  
 副会長 山本 光則（布田南部自治会）  
 中谷 俊一（地区ボランティア有志）  
 林田 紀子（地区ボランティア有志）  
 藤田 秀雄（布田南部自治会）  
 金山 耕治（染地かもめ会）  
 理事 河内 信郷（地区ボランティア有志）  
 矢幡 秀治（布田小地区学校開放運営委員会）  
 齊藤 修太郎（健全育成推進布田地区委員会）  
 吉村 竜児（布田小PTA）  
 坂下 幸（染友自治会）  
 磯原 直道（地区ボランティア有志）  
 齊藤 厚子（地区ボランティア有志）  
 野口 潤（地区ボランティア有志）  
 会計 齊藤 厚子（地区ボランティア有志）  
 野口 潤（地区ボランティア有志）
- 《運営委員》  
 澤口 孝行（桜丘睦会）  
 山口 祐二（布田西部自治会）  
 新田 重彦（布田西部自治会）  
 岡宗 秀一（布田西部自治会）  
 代田 詠造（布田南部自治会）  
 久場 兼三（染地一丁目自治会）  
 雪本 修一（地区ボランティア染地2丁目）  
 新津 敏男（民生児童委員）  
 永谷 容子（民生児童委員）  
 鈴木 啓子（健全育成推進布田地区委員会）  
 岩佐 理佳（健全育成推進布田地区委員会）  
 柴垣 涼子（健全育成推進布田地区委員会）  
 江原 幸一（布田小学校）  
 山口 節子（染地児童館）  
 高野 千尋（郷土博物館）  
 嵐 祐子（こころの健康支援センター）  
 阿部 光保（地区ボランティア有志）  
 佐藤 京鼓（ちょうふ花園）  
 池本 明央（地区ボランティア布田6丁目）
- 《監事》 山口 勉（布田西部自治会）  
 荘司 和代（民生児童委員）

### 布田小おやじネット Tシャツ



布田小学校のPTA組織内には「おやじネット」という通学する児童の父親のネットワーク組織があります。勤めにできる父親は地域のつながりが薄くなりがちですが、ここ布田小では、学校のいろいろな行事サポートや自分たちで企画する自主事業を行いながら、人とのつながりをつくり情報交換などを行っています。通学する児童の父親であれば



おそろいのTシャツを着て夏休み期間中のラジオ体操を実施するおやじネットの皆さん

誰でも登録と活動が可能です。特に新年度を前に新しく入学する新一年生のお父さん、あるいは在学中のお父さん、登録して一緒に活動してみませんか。

昨年の文化の日に続く三連休最終日の11月5日に、立川防災館の親子体験見学会を当地区協主催で行った。前日の雨もやみ秋晴れの朝八時、布田小北側道路に停まった調布市のバスに、6組16名の親子と市の防災課職員や地区協関係者が乗り込んだ。布田小正門前の白山通り通学路の安全対策として、グリーンベルトの早期実現に尽力いただいた林明裕市議も参加された。米大統領来日の当日で、心配された立川までの道路混雑もなく、立川基地の跡地を利用した広く開けた立



親子でAED講習中

川防災館に定時に到着、見学会のガイドを担当して下さる女性スタッフの出迎えを受けた。早速、煙体験コーナーへ。当地区協が実施している布田小での防災訓練で、テント式の煙体験を設置したこともあるが、防災館のそれはより本格的。実際に火災になった室内を模して、開かない扉があったり暗闇になったりする簡単な迷路を、家族ごとに出口まで通り抜けるのだ。体験に先立って、ガイドさんに避難時の心がけとして「おかしも」、押さない・駆けない・喋らない・

地域内の年末パトロールに同行してきました。極寒でしたが、地域を大切にする皆さんの気持ちで心が温まりました。



西友会の皆さん（布田三～六丁目）

戻らない、と教わったが、いざ実際に煙（と言っても模擬煙で人体に害が無いように準備されている）の充滿した部屋に入ると、なかなか難しい。特に途中で施設の不具合から、本来消えないはずの非常灯まで消えてしまったことがあり、何組かの親子は期せずして

## 親子体験見学会を実施 立川防災館 11月5日（祝）



白山宮神社初詣（布田南部自治会）



桜丘睦会（多摩川七丁目）



染友自治会（染地一丁目）



布田四丁目付近パトロール中

### ◇「大雪の日」◇

その日の月曜の夕方、10分もしないうちにまた道が元通りの真っ白になってしまおう深々と降り続ける雪に明日はいつたかどうなってしまうのか、という不安がよぎった。

日が暮れるころ、この地域のある民生児童委員の方が両手にスコップを抱え、一人暮らしの高齢者が心配でその家の前の雪かきをしてきた、とのこと。降雪後の道路の凍結も大変危険なので、速やかな除雪が必要だと強く共感しながら、私も近所の除雪作業を続けた。

翌朝、あたり一面の銀世界に感慨にふけっている暇もなく午前中にかけて雪かき作業を行ったが、余りにも大量のため道路には多くの雪が残ったまま。案の定、建物北側の日陰になる道々は、一週間以上も凍結したまま極めて危険な街の風景が、身近に数多く展開され続けていた。これもひとつの自然災害で、声をかけ合い協力して少しでも多く雪をどける、凍結防止剤の塩カルなどを保管しておく等、日ごろからの雪・凍結対策が必要だと感じ、そして思った。これを機に一月末のこの月曜日をこの地域独自に「大雪の日」と制定してみよう、と。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願ひ申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会  
 会長 依田 耕児

**運営委員募集中！**  
 ★年6回の運営委員会  
 ★防災教育の日 避難所訓練  
 ★地域の安全安心活動  
 お近くの上記運営委員にお尋ねください  
<http://happy-usako.jp>



### はっぴーなきずな

藤井聡太4段が連勝記録で話題になっていた頃。「将棋しようぜ！」という声があったので覗いてみると、将棋盤のまん中には駒の山が... 山崩しでも回り将棋でも将棋は将棋。子どもは充分に棋士気分を味わえるのですね。  
 （染地児童館・山口節子）

調布の花火大会「映画のまち調布“秋”花火2017」は、やむなく中止となりました。当日朝の天気は小雨でみんな開催を期待していましたが、台風の影響による多摩川の増水で打上会場の準備ができませんでした。とても残念です。  
 （協働推進課・小林栄一）

# 立川防災館 見学会

(1面から続く)

真つ暗闇の怖さを体験することになった。  
次の体験は応急救護。当地区協では約一年前に、この健康支援センターで救急救命講習会を開催し、AEDの実地訓練を主体とする救命技能・経験を広める事業を進めているが、防災館では家族ぐるみで体験できる場所がミソ。救急救命は二人以上で協力して行えば良いのだが、たとえ小学生でも応急救護の体験があればぜひぶん助かるし、防災館での親子の共通体験は万一の時にプラスに働くだろう。

続く消火体験では消火器を実際に使ったり、地震体験では家族一緒に東日本大震災の揺れを体験したりした後、防災ミニシアターで過去の大災害の実態に基づいたアニメ映画を観て、防災館の親子体験見学会は終了。4階の休憩スペースでお弁当を頂いたのち、再び調布市のバスで布田小に午後2時に帰着した。

布田6丁目にお住いの岩上さんご家族は「防災館には前にも来たことがあります、時間が経つと忘れてしまうので、防災に対する意識をもう一度高めることができました。」お嬢さんは「この前来た時にはあった消防車体験が

できなくて残念だった。」と話してくれました。

「防災館に来たのは今回が初めてです。マンションに住んでいることもあり、煙体験が一番印象に残りました。本当にこんなことが起こったら困るので、防災に今まで以上に気を付けます。」と感想を話してくれました。坊やのお気に入り、防災の映画、昔の災害の現場に行ってしまうストーリーが面白い」とのことでした。

布田5丁目にお住いの平家さんご家族は「煙と地震体験が良かったです。首都直下地震が今後30年のうちに70%の確率で起こると聞いて、そん



家族ごとに分かれて消火訓練

な災害に備えをしなければと思いつきつけかけになりました。」と話してくれました。



テーブルの下で「震度6」を体験

すべての見学と体験を終えて

# 白山宮神社節分祭

2月3日(土) 14時半



今年も恒例の節分祭が布田南部自治会主催で行われた。土曜日の開催ということもあり子どもたちも多く集まり、豆まきは大きな声で揃い元氣いっぱいに行われた。毎年祈りに来てくれる宮司の野澤靖明さんは、「国領神社の節分が終わってすぐここに来ました。皆さんの無病息災とこの地域の安心安全を願っています。」

また、使用する豆は、旧甲州街道沿いの玉川屋で購入するそう、国領神社では計四箱二十八キログラム、白山宮神社では一箱七キログラムを一日で使用。いずれも北海道産の高級大豆を使用し、自社で炒っていて大変おいしい自信豆なのだそう。皆さんも味わって食べてみてください。



神社の外に向かって「鬼は外〜！」



宮司に玉串をもらって参拝



染地にある施設の玄関入口

先週末での厳しい寒さがようやく緩んだものの、冷たい雨降りになった一月十七日の午後、ふみ月チャレンジ染地を地区協運営委員四人で訪問した。

NPO法人ふみ月の会は一九八二年に、障がいのあるお子さんの保護者有志と指導者が中心となって、放課後の集団および個別指導を行いながら将来への少しでも生きやすい療育を目的として設立された。二〇一二年六月からは、障がいのある学齢期児童に対し、学校の授業終了後や休校日に療育や様々な活動を提供する「放課後等デイサービス」を行っている。二〇一五年にはふみ月チャレンジたま川を開所し、早めに学校が終わる小学生を中高生と分けてデイサービスを行えるようになった。

けるように、という方針がふみ月の会の療育の柱として貫かれている。

朝香さんは、地域の公共団体や店舗、それに周辺に住まれている住民の方々の、普段通りではあるけど少しだけ配慮した対応と、必要に応じたボランティア的な協力は、本当にありがたいと何度も繰り返し返された。この施設の近くにお住いの女性は、いつも自然体で子供たちに接して下さるし、ご主人は送迎車を運転できる人が足りないと感じて運転を買って出下さった、更に週末にはご夫婦で子供たちにジャズの演奏まで聞かせて下さったんですよ、と地域のサポートの事例を話して下さいました。

# ふみ月の会 「チャレンジ染地」訪問

## 染地一丁目



集まって談笑する皆さん



作品 かすりの藍染め



レンコンのポテトチップ風おやつ

訪問した午後四時はちょうど中高生が学校の授業が終わって、送迎の車で施設に到着したところ。子供たちがおやつ作りの活動を行っている横で、施設長の朝香ちよみさんのお話をお聞きした。

例えば、自宅や施設など普段から慣れた場所では普通に食事ができる子供でも、レストランのように広い空間で沢山の人が食事をしていて、あるいは周囲の音が天井から反響してくると、落ち着きを無くして食事ができなくなってしまうことが起きてしまうそう。環境が変わっても普通に食事ができるように、地域のお店にご協力をいただいたりしている。子供たちがごく当たり前の社会生活に、柔軟にそして生き生きと適応してい

お話を伺いながら、同じ地域で活動している当地区協としても、いくつもの協力できる機会やポイントがあると思われた。

例えば毎年五月ごろの親子まつりではバザーも行われるとのことなので、販売する品物集めに地区協は協力できるだろうし、ふみ月の会の子供たちが、白山宮の節分祭や子供祭りに参加することも、少しの準備と役員の対応で可能だろう。

そんなお話をしている内に、子供たちが作っていた薄切りレンコン炒めのおやつができあがり、「どうぞ」とお茶と一緒に運んでくれた。塩味のおいしいおやつをいただき施設を後にしたが、ほとんど全員の子供たちが階下の玄関まで見送りに来てくれ、口々にきよならを言ってくれる笑顔がうれしい訪問だった。

(藤田秀雄)



みんなで作った今年の年賀状